

第2回人権啓発講演会「防災と人権」(田端八重子さん)講演概要

新宮市では平成 27 年 2 月 7 日、新宮市福祉センターにおいて、もりおか女性センター長の田端八重子さんを講師にお迎えし「防災と人権 ～ 東日本大震災からもうすぐ 4 年 被災地で生きる女性たちの今 ～」と題して第 2 回人権啓発講演会を開催しました。講師の田端さんは、震災後、沿岸地域の支援活動を通して女性相談窓口を開設、被災した女性たちの経済的自立に向けた「女性企業家育成事業」などを行っています。田端さんは、来場された約 130 人の聴衆の皆さんに、女性の視点から被災時の状況や弱者への配慮などについて語りました。

また、アンケートも実施し、約 64%の方からご協力をいただきました。その中では、「現場で活動しておられるので、具体的に良くわかった。」「弱者が暴力を受ける事が多々ある事を知り、保護することをみんなで考えることが大事」などの感想が寄せられています。詳しくは、一覧表のアンケート欄をクリックしていただきますと、アンケート集計結果の PDF ファイルがご覧いただけます。



田端さんは、岩手県発表では、東日本大震災の死者は直接死 4,672 人、関連死 449 人。現在行方不明の人は 1,132 人となっています。災害公営住宅は 5,946 戸必要なのに、完成戸数は 913 戸で 15.35%しかできていませんと述べ、まだ復興が進んでいないことを示しました。「津波は本当に恐ろしい。人の命、財産を全て奪っていく。しかし、関連死はゼロにすることができたのではないか」との思いを打ち明けました。関連死をなくすためには、①これまでの震災から学び、繰り返さないという強い思いを持つ。②過去の災害の教訓や体験を知恵に変える。③薬の備蓄など有事の際必要なことは、平常時にやっておく。などが重要と語りました。



避難所では、障がい者の差別と排斥、シングルマザーや単身女性への好機の視線など、弱者が危険な状態に置かれていたという。阪神淡路大震災など過去の自然災害時にも、①女性たちへの暴力が急増。②女性の失業者が増加。③固定的性別役割分業が強化。などの問題があり、女性たちが二重の苦しみを味わったと語り、過去の教訓を踏まえ、田端さんは防災・減災に強い街づくりのためには、①人権の視点と男女共同参画の視点の重要性。②多様な視点を生かす、女性防災リーダー養成講座。③男女共同参画の視点を生かした、避難所運営ガイドライン作成講座。の 3 つを提示していた。

講演する田端八重子さん （新宮市福祉センター） 平成 27 年 2 月 7 日（土）